

村振興は選挙の御題目に過ぎなかつたが第六十三議會に於て初めて農村問題が議會の中心問題となり政府の提供したるものは農村救済土木事業であつたが然し未だ農村に對して何等關心を持たれて居ない事を知つたのである。

吾々は自主的な農民團體として活動を續けて來たのであつて決して反國家的な團體ではない或る農民組合に於ては第三インターナショナルを奉ずるものもあるが我が日農は三千年の建國精神である皇道主義に基き運動し來たつたのである。

現在の經濟狀態よりして富は中央に集中し小數財閥の手に支配され貧富の差が益々大きくなる事は國家の重大問題である故に國家に於て經濟を統制し富を農村に引戻す以外に吾々農民の救われる途はないのである、上御一人と下萬民との間に搾取階級がある時は常に農民は疲弊した、財閥と結託して搾

取する者を取除くことに依つて非常時を打解せよ、九州男子立たずんば非常時打解は出來ぬとの信念を以て皇道主義に依り邁進せよ。

○黎明に吹く草笛

原田謙次

愛國の熱情を以て非常時局打解に邁進せなければならぬ、明治維新以來海外事情に接し賢明になつた事はよろしい、然し盲目的に西洋を崇拜し世界に誇る大和民族の美風である建國の大精神を忘れたこの時代錯誤に支配されず根本を忘れずに進歩せるものは唯陸海軍のみである、思想上に於ては明治以來の教育の欠陥から日本精神を忘れ國家に叛く共產黨を發生せしめた、政治に於ては黨利黨略に國家國民を省ず憲政常道を唱へるが、議會に於ては欠伸をし駭本を見野次を飛ばす、之が憲政の常道であるか、收賄を行ふ者あり之を常道と云ふ